

投稿について

編集部では、読者の皆さんから「声」を募集しています。原稿は五百字以内で、「声」と明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、所属教会も明記してください。用語その他で添削することもあります。原稿はお返しいたしませんのでご了承願います。FAX (03) 56327030、ウェブサイト (<http://cwjpn.com>) でも受け付けられます。



泣き部屋のない

教会の子どもら

福岡・行橋教会

井本美穂子(43)

七月二十二日付本欄の長野忠義さんのご意見について、私の所属する行橋教会のことを少し紹介させていただきます。

きたいと思います。当教会は幸いにも「泣き部屋」と呼ばれる部屋はありません。子どもたちの席は左右、前から二列ずつ。子どもサイズの長イスで大人用とともに匿名の方からのプレゼントです。小さい子ども連れの家族はその後ろの大人用の

長イスに。3、4歳ごろから親の元を離れて一人で子どもイスに座る子がほとんどです。初めて一人で座った子は、神父が「デビューした〇〇ちゃんです」と紹介します。ミサ中、じっとしているわけはなく、歩き回って祭壇近くまで行った

り、ぐずって泣き出す子もいますが、それを大人は制したりせず、温かく見守ります。どの子ども声を出したり動き回るのはほんの初めの一時期です。聖体拝領を終わった人が、子どもたちの頭をなでながら自席に戻って行くこともあります。祭壇近くの子どもたちは、そこに見える「何か」をも感じ取っているようです。祭壇から遠く離れた「泣き部屋」で隔離されてないからこそ、神を身近に感じ、祈りの雰囲気溶け込んでいるのです。こうして育った子どもたちは三時間にも及ぶ復活徹夜祭の典礼でも大人たちにつきあってくれ、祝福されたイスターエッグをミサ後に配る役目を喜々として果たしてくれるのです。